

## 大田区立中学校部活動の地域連携・地域移行に関する検討会 モデル事業に係る分科会 会議録要旨

開催日時：令和6年2月5日（月）午後6時から

実施形態：オンライン開催

### 【委員長】

- ・第1回検討会では、事務局からモデル事業の方向性について説明があり、委員の皆様にご承認いただいた。
- ・本日はモデル事業の概要について、事務局から詳しく説明してもらい、皆様からご意見・ご質問をいただきたい。

### 【指導企画担当課長】

- ・地域クラブ活動として「セガサミールクス」やダンススクールから外部講師を招き、学校の垣根を超えたダンスチーム（「オー・ティー・エーダンスチーム」）を設立する。年に1回、発表会を実施することが特徴。生徒に多様な体験機会を提供し、課題や効果を検証する。
- ・区立中学校の中で、2校を拠点校とする。現在ダンス部がない学校（A）とある学校（B）で1校ずつを想定している。
- ・「ハイブリッド型地域連携・地域移行」のモデル校に加配する部活動指導員とは別に、部活動指導員2名を「オー・ティー・エーダンスチーム」の顧問としてそれぞれの拠点校に配置する。
- ・Aに配置される部活動指導員を「オー・ティー・エーダンスチーム」の主顧問とし、平日はオンラインによる指導、休日はAの体育館などの施設で活動を行う。
- ・Bに配置される部活動指導員を「オー・ティー・エーダンスチーム」の副顧問とし、平日はBでダンス部の指導、休日は日本工学院専門学校のダンススタジオで「オー・ティー・エーダンスチーム」の指導を担う。
- ・他の区立中学校で「オー・ティー・エーダンスチーム」に所属する生徒は、平日はオンラインで指導を受け、休日はA中学校又は日本工学院専門学校に行き指導を受ける。

### 【学校支援担当課長】

- ・区立中学校の内、モデル校を5校設定し、学校部活動の指導員配置パターンを3つ（Ⅰ：委託事業者（地域のスポーツクラブや民間事業者等）、Ⅱ：校外指導員・教員、Ⅲ：部活動指導員）に組み合わせて配置するモデル事業を実施する。
- ・開始時期については、Ⅰについては5月から、それ以外は4月からを予定している。
- ・Ⅰについては業務委託のため、責任者を通じて指導員を指揮命令する。
- ・ⅠとⅢは単独での部活動指導や大会引率等が可、Ⅱは単独での部活動指導や大会引率等が不可。

### 【委員】

- ・「諸課題を検証する」とあるが、現在考えている諸課題とは何か、また、どのように検証していくのか。

#### 【指導企画担当課長】

・ダンスチームについては、生徒との連絡方法である。今年度、試行した際にも、当日無断欠席した生徒があり、確認を取るのに時間がかかった。

#### 【学校支援担当課長】

・ハイブリット型事業については、指導員の派遣元との契約形態（業務委託か派遣委託か）、現在、教員が担っている業務を、どこまで外部へ委託できるのか等が課題である。

#### 【委員】

・ダンスチームについて、平日は全校を対象にオンラインで指導を行うのは課題が多い。視聴環境を整える準備も必要になる。まず、試行的に数校+拠点2校で実施するのはどうか。

・事前に想定される課題を委員から出してもらい、それを解消してから事業を実施すべきではないか。事業を開始してから対応する形では各校が混乱する。

#### 【指導企画担当課長】

・これから各校に対してダンスチームへの参加希望者取りまとめを依頼するが、どれだけ希望者がいるか懸念がある。仮にたくさんの生徒が応募してきた際も、対応できるだけの予算は取っているので、例えば、何チームかに分けて時間帯をずらして実施する等考えている。また、Googleの「Classroom」で生徒と部活動指導員をつないで、オンライン指導を行うことも考えている。ただ、オンライン指導には課題があることも認識している。

・課題については、この分科会等を活用して提示していただき、その対応策を検討したうえで事業を実施する。

#### 【委員】

・ダンス部のない拠点校に教員の管理から離れた他校生が集まるのはトラブルの元である。区内にダンス部がある中学校は2校あるので、それぞれが拠点校になればいいのではないか。そのうえで、ダンス部がないけれどもダンスをやりたい子どもは土日に集まるとした方が望ましい。

#### 【指導企画担当課長】

・平日に他校生を集めることの可能性については今後検討する。

・すでにダンス部がある学校からは、既存のダンス部を残してほしいという意向がある。2つのダンス部を運営するのは難しいと考えているため、1校はダンス部のない学校を拠点とすることを想定している。

#### 【委員】

・オンラインでやる効果を考えた方がいい。もし、その学校に1人しかダンスチームへの参加希望者がいなくても、オンラインならつながることができ、居場所づくりにもなる。

・既存のダンス部を、このスキームに入れる必要があるのか。すでに指導者がいてしっかり運営されているはず。ダンス部がない26校に広めていくのがいいのでは。

・子どもたちの管理を、教員だけではなく、地域の人に担ってもらう方法もある。

**【委員】**

- ・ダンスチームについて、土日だけ参加することも可能か。

**【指導企画担当課長】**

- ・可能である。なお、すでにダンス部がある学校は、平日は既存のダンス部として、土日は「オー・ティエー・エー ダンスチーム」として参加してもらう予定である。

**【委員】**

- ・ダンス、特にヒップホップは複数人で演技するケースが多い。今回、オンライン視聴についてはタブレットを使用するということが、大きな画面で投影できる機器を整備すべき。
- ・今回肝となるのは、指導が入ること。それにより子どもたちの技能が向上するので、披露する場を設定することが重要。例えば、スポーツ推進課でもイベントを実施しているので、それと連携することは考えているか。

**【指導企画担当課長】**

- ・披露する場については大切なことだと考えている。現在、大きな発表会として、区民プラザを借りることを検討中。それ以外にも、「子どもガーデンパーティー」等の場で積極的に披露していきたいと考えている。また、目標をもって挑戦できるよう、朝日新聞主催のダンスコンクールがあるため、それに出場できないかと考えている。

**【委員】**

- ・ダンスについては、動画がスムーズにみられる環境でないと効果がない。
- ・新しい発表の場だけではなく、既存の発表会を最大限活用してほしい。

**【指導企画担当課長】**

- ・オンラインだと難しい場合も、講師によるダンスの見本を動画で撮影して共有する形であればうまくいくのではないか。

**【委員長】**

- ・動画を撮影するのは、生徒か指導者か。

**【指導企画担当課長】**

- ・どちらが担当しても構わないと考えている。また、生徒のダンス動画を講師に送ったり、友人同士で共有したりすることもできると思う。

**【委員】**

- ・ハイブリット型について、モデル校5校にパターンⅠからⅢをそれぞれ割り当ててるのか、それぞれの学校がパターンⅠからⅢをすべて実施するのか。

#### 【学校支援担当課長】

・それぞれの学校がパターンⅠからⅢをすべて実施する。ただ、学校によって、それぞれのパターンの比重は変わる。

#### 【委員】

・先ほども話したとおり、期限を決めて、各委員から想定される課題・懸念を出してもらい、事前に解消してからスタートした方がいい。

・資料4に「責任者（メイン・サブ）」とあるが、この方たちが学校と生徒・保護者や派遣されてくる指導員の調整役として、毎日学校に来てくれるのか。

・派遣されてくる指導員が急に来られなくなった場合、代役が来るのか。それとも、部活を中止する等の措置を学校が対応する必要があるのか。

#### 【学校支援担当課長】

・委託事業が始まる5月までに、事業を円滑に進めるための意見をいただければと思う。

・配置された指導員を束ねる人材で、学校と事業者をつなぐ役割をメインに考えている。学校と相談しながら調整していく。

・契約上、指導員が何らかの事情で行けなくなったときは、代役が派遣される想定である。

#### 【委員】

・責任者＝調整役を学校がやらなくてはいけないと思っていた。

#### 【学校支援担当課長】

・学校では、副校長等に事業者（責任者）との調整窓口を担っていただいたり、状況に応じて、部活指導にかかる責任者を置いてもらったりすることとなる。学校と相談しながら調整していく。

#### 【委員】

・本事業の目的には教員の働き方改革があるため、将来的には、教員が部活動指導を行わなくなるのか。部活動は、生活指導面も兼ねて教育活動としてやってきているので、指導員だけではそういった側面は担えず、教員がかかわらざるを得ないのではないかと感じる。今後、どのような展開を想定しているのか。

#### 【学校支援担当課長】

・明確に定まっていないが、検証結果として業務委託の手法が有効であれば、将来的に会計年度任用職員である部活動指導員の比率を下げつつ、業務委託の割合を高める等の可能性はある。

・国からは、令和7年度末までに部活動の地域連携を推進するよう方針が出ているが、その先を見据え、地域クラブ化するためのシミュレーションを兼ねて実施していく。

#### 【委員】

・最終的に、部活動が地域活動の一環として、子どもたちをスポーツの面で育成することについての  
大義が必要ではないか。ハイブリット型のパターンでいえば、すでにⅡ・Ⅲは導入されているが、新

たにパターンIを加えることでどのようなメリットがあるのか、比較検証し、最終的に大田区モデルを作り上げていくべき。

**【委員】**

- ・ハイブリット型について、今まで誰も取り組んだことがない中で、学校と委託業者、地域が一緒になって議論したうえで作り上げることの困難さを感じている。来年度は業者が決定してから短時間で準備しなければならず厳しい環境だが、そのような中でも、それぞれが力を出し合ってよい環境を作っていくことが大きなテーマではないかと思う。
- ・本事業に関する将来の方向性について、地域がお手伝いする中で何を目的にしてやるのかということもイメージしながら議論を進めていくべき。

**【委員】**

- ・業務委託契約の仕様に、学校の意見を反映させるべき。机上の意見と学校現場の実態は異なる。
- ・保護者からは、部活動の教育面を重視する意見が強いので、今回のモデル事業もそのような形になって欲しい。

**【学校支援担当課長】**

- ・仕様を固めるにあたりモデル校へヒアリングを行っているが、学校ごとにニーズが異なると感じている。また、あまり内容を固めすぎるとモデル事業として検証の余地が少なくなることに留意する必要がある。
- ・事業の将来像や指導員の配置方法等、望ましい形について検討会を通じて話し合い、形にしていくような展開にしていきたい。

**【委員】**

- ・部活動の地域移行については、地域が納得し、事業の有用性を実感してもらうことが必要。そのため、「地域を巻き込む」という意味合いを皆さんに共有できる場を設けてほしい。

**【委員長】**

- ・想定される課題を委員が出し合い、それらを解消できるかどうか、検討会で確認することが必要。
- ・どの区市町村も試行錯誤しているため、いい部分については学びながら進めていきたい。